

2015年8月7日

クラレトレーディング株式会社

平成27年（2015年）12月期第2四半期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社
代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村井 研三
問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治
: (TEL) (06) 7635-1636

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年12月期第2四半期の連結業績（平成27年1月1日～平成27年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

	当第2四半期累計期間 (平成27年1月～平成27年6月)		前第2四半期累計期間 (平成26年4月～平成26年9月)	
	金額	利益率	金額	利益率
売上高	60,207	-	58,741	-
営業利益	1,987	3.3%	1,769	3.0%
経常利益	2,081	3.5%	1,812	3.1%
四半期純利益	1,416	2.4%	1,174	2.0%

(注) 当社は、平成26年12月期より決算日を3月31日から12月31日に変更いたしました。これに伴い、当第2四半期累計期間（平成27年1月1日から同6月30日）と、比較対象となる前第2四半期累計期間（平成26年4月1日から同9月30日）が異なるため、対前年同四半期の増減は記載しておりません。

（前第2四半期累計期間は、当社が平成26年4月1日から同9月30日までを、連結子会社の可樂麗貿易（上海）有限公司は平成26年1月1日から同6月30日までをそれぞれ連結対象期間としておりました）

(2) 単体経営成績（累計）

	当第2四半期累計期間 (平成27年1月～平成27年6月)		前第2四半期累計期間 (平成26年4月～平成26年9月)	
	金額	利益率	金額	利益率
売上高	59,445	-	58,166	-
営業利益	1,869	3.1%	1,682	2.9%
経常利益	1,960	3.3%	1,721	3.0%
四半期純利益	1,327	2.2%	1,107	1.9%

2. 当四半期決算に関する定性的情報

【連結業績】

	当第2四半期累計期間 (平成27年1月～平成27年6月)		前年同一期間※ (平成26年1月～平成26年6月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	60,207	-	57,280	-	+2,927	+5.1%
営業利益	1,987	3.3%	1,823	3.2%	+164	+9.0%
経常利益	2,081	3.5%	1,910	3.3%	+170	+8.9%
四半期純利益	1,416	2.4%	1,197	2.1%	+219	+18.3%

※前年同一期間は、当第2四半期累計期間（平成27年1月1日から同6月30日）に対応する前年の同一期間（平成26年1月1日から同6月30日）であります。この数値は監査を受けておりません。

【単体業績】

	当第2四半期累計期間 (平成27年1月～平成27年6月)		前年同一期間 (平成26年1月～平成26年6月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	59,445	-	56,543	-	+2,902	+5.1%
営業利益	1,869	3.1%	1,735	3.1%	+133	+7.7%
経常利益	1,960	3.3%	1,819	3.2%	+140	+7.7%
四半期純利益	1,327	2.2%	1,129	2.0%	+197	+17.5%

以下、前年同一期間との対比で記載しております。

当第2四半期連結累計期間（平成27年1月1日～平成27年6月30日）の当社経営環境は、国内市場は内需主導の景気回復が緩やかに浸透し、企業の設備投資の意欲も高まりが見受けられました。一方、当社が注力しているアジア市場は、最大市場の中国の景気減速が顕在化し、周辺国に影響を及ぼしはじめました。また、円安が緩やかに進行し一部商材ではコストアップ要因となりました。

このような環境の下、クラレグループが目指す「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学企業」の実現に向け、当年度よりスタートした新中期経営計画『GS-STEP』において掲げた「アジアを中心とする成長市場の積極的な開拓」を進めております。更に、諸コストの上昇に対しましては、コスト削減や価格改定に努めました。

当第2四半期連結累計期間の連結経営成績につきましては、売上高は602億7百万円（対前年同一期間比29億2千7百万円、5.1%の増収）、営業利益は19億8千7百万円（同1億6千4百万円、9.0%の増益）、経常利益は20億8千1百万円（同1億7千万円、8.9%の増益）、四半期純利益は14億1千6百万円（同2億1千9百万円、18.3%の増益）となりました。

以下< >の中の名称は(株)クラレの商標です。

(1) 営業の概況

【繊維関連】(増収、増益)

売上高は22,360百万円。前年同一期間比857百万円(3.9%)の増収。

(衣料分野)

- スポーツ分野は、スポーツアパレル向け高機能素材の販売、並びに学校体育衣料向け販売が好調に推移し、増収となりました。
- ユニフォーム分野は、ワーキング用途が生地、製品とも好調な出荷が続きましたが、サービス用途での流通在庫調整が影響し、減収となりました。
- ブラックフォーマル分野は、特にロードサイド店向けが好調に推移し、濃染加工や遮熱など新規機能素材の採用も進展し、増収となりました。
- 機能原糸は、<ミントパール>が各用途で販売数量が拡大し、また<クラカーボ>もアジア、欧州で採用が進展し、増収となりました。
- 上海現地法人では、現地日系アパレル向けを中心に縫製品販売が拡大しました。

以上の結果、衣料分野は増収、増益となりました。

(資材分野)

- スポーツ靴用資材、メディカル関連資材は、好調な需要に支えられ順調に拡大しました。ベトナム現地法人との協働による、現地日系企業向けの供給体制の構築もスポーツ靴用資材を中心に着実に進展しております。
- 産業資材は、自動車用ゴム資材のビニロンや、高強力繊維<ベクトラン>が輸出を中心に堅調に推移しました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、主力のランドセル用途の販売が好調に推移し、増収となりました。

以上の結果、資材分野は、増収、増益となりました。

【樹脂・化学品・化成品関連】(増収、増益)

売上高は37,847百万円。前年同一期間比2,070百万円(5.7%)の増収。

- 溶剤等化学品関連は、国内、輸出とも順調に拡大し、特に輸出は円安環境の中売上高が拡大しました。
- 環境関連資材含むその他の分野は、活性炭の中国向け販売の減少や、国内で競合激化の影響を受けた分野がありました。

(2) 平成27年12月期の連結業績予想(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

当社の経営環境は、日本国内では内需主導により景況が回復基調にあり、先進国経済も全体としては原油安などにより穏やかな前進基調にあります。しかし、その一方で、中国経済の減速やギリシャでの財政危機の影響の広まり、また一部国・地域での政情不安等々の懸念材料があり、予断を許さない状況にあると認識しております。

このような中、新中期経営計画『GS-STEP』の戦略に則り、アジアを中心とする海外市場の成長を積極的に取り込む施策に注力し、当期業績予想の達成を目指して参ります。この結果、通期の業績予想は年初公表から変更しておりません。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
年初公表	1,200	40	40	25
今回公表	1,200	40	40	25

<注記>上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

以 上